

平成27年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名		いじめ・不登校対策事業							担当部		教育委員会事務局			
	会計区分		一般会計			事業類型		実施計画事業以外		担当課		学校教育課			
	事業期間		平成12年度以前			～			平成31年度以降			担当係		学校教育係	
	総合計画分野別計画	主目的	3 教育・子育て			12 学校教育			3 教育力を向上し、調和のとれた人格形成を支援します						
		副目的										実施計画対象			
	予算区分		款	10	項	1	目	3	大	4	中	1			
	根拠法令・個別計画		小牧市適応指導教室「カルミア」事業実施要項、小牧市適応指導教室「アイトワ」事業実施要項、学校カウンセラー派遣事業実施要項、不登校児童生徒訪問指導員派遣事業実施要項												
	目的 (対象をどのような状態にするのか)		不登校児童生徒を苦しみから救うとともに、学校復帰のエネルギーを養うための支援を行い、学校生活への適応を図る。また、新たな不登校を生まないように、すべての児童生徒が充実した学校生活を送ることができるようにする。												
	内容 (手段)		◆26年度実施内容 ・適応指導教室(2箇所「カルミア」「アイトワ」)の運営 何らかの心理的・情緒的な要因により学校に登校しない児童生徒、あるいは登校したくてもできない状態にある児童生徒を対象に、学校復帰に向けた、適切な指導・支援を行った。 ・学校カウンセラーの派遣 小中学校の教員、保護者、児童生徒を対象に、学校カウンセラーを派遣し相談業務をおこない、いじめや不登校などについて、専門的な立場から適切な指導助言を行った。 ・不登校児童生徒訪問指導員の派遣 学校と連携を図りながら不登校児童生徒の自宅を訪問し、指導や保護者との面談をおこなった。 ・心の教室相談員の配置 児童生徒が悩み等を気軽に話せ、ストレスを和らげることのできる第三者的な存在である「心の教室相談員」を各小中学校に配置し、心を支える環境の整備を行った。 ・いじめ・不登校対策事業 不登校の原因や背景を理解し、関係機関等の連携のもとに組織的に対応することの重要性とその対応の在り方について、理解を深める。業務を、小牧市いじめ不登校対策連絡会へ委託し、いじめ・不登校対策関係機関会議、いじめ・不登校対策連絡会、適応指導教室・担任連絡会、講演会、研修等を行った。 ・適応指導教室連絡協議会への参加 全国適応指導教室連絡協議会、愛知県適応指導教室連絡協議会に参加し、日々対応に苦慮している指導方法や問題解決の参考とした。 ◆26年度直接経費の内訳 フレッシュフレンド・アイトワボランティア謝礼(275千円) 心の教室相談員謝礼(17,339千円) いじめ・不登校対策事業委託(270千円) 消耗品費(145千円) 通信運搬費(72千円) その他旅費・燃料費・食糧費・医薬材料費・保険料・テレビ放送受信料・美術館入場料・修繕料・事務機器借上料・研修会負担金等(269千円) ◆27年度直接経費の内訳 フレッシュフレンド・アイトワボランティア謝礼(480千円) 心の教室相談員謝礼(17,500千円) いじめ・不登校対策事業委託(260千円) 消耗品費(201千円) 通信運搬費(78千円) その他旅費・燃料費・食糧費・医薬材料費・保険料・テレビ放送受信料・美術館入場料・修繕料・事務機器借上料・研修会負担金等(443千円)												
	受益者負担		無												

コスト			単位	H24決算額	H25決算額	H26決算額	H27予算額	
	費用	直接経費		千円	18,801	18,596	18,370	18,982
		正職員	従事者数	人	0.49	0.49	0.49	0.49
			人件費	千円	2,577	2,577	2,577	2,577
		その他職員	従事者数	人	4.40	4.40	4.40	4.40
			人件費	千円	27,941	28,056	27,851	29,236
		費用合計		千円	49,319	49,229	48,798	50,795
		対前年比		%		99.8	99.1	104.0
	財源	一般財源		千円	49,319	49,229	48,798	50,795
		国・県支出金		千円	0	0	0	0
		その他財源		千円	0	0	0	0

業 績	活動指標名	単位		H24	H25	H26	H27
	カルミア・アイトワ入室 児童生徒数	人	目標	—	—	—	—
			実績	36	28	23	
	不登校児童生徒訪問 回数	回	目標	—	—	—	—
			実績	157	184	274	
			目標				
			実績				
	成果指標名	単位		H24	H25	H26	H27
	不登校者のうち、良い 変化のあった者の割合	%	目標	55	55	55	55
			実績	46.0	38.9	27.9	
		目標					
		実績					

事業の自己評価	平成26年度の実施結果		事業の 達成状況	学校カウンセラー・心の教室相談員による相談活動や不登校児童生徒訪問指導員による家庭訪問など学校復帰に向けた支援活動を行うことができた。小牧警察署へいじめ・不登校対策関係機関会議の参加をお願いし、さらなる関係機関の連携を図ることができた。
			事業実施における課題	不登校者のうち、良い変化のあった者の割合が減少した。児童生徒を取り巻く環境は、入学(転入)や卒業(転出)等により変化しており、いじめ・不登校対策として、良い変化がみられた支援活動でも継続的に効果があるとは限らない。
			事業を縮小・廃止したときの影響	不登校児童生徒の学校復帰の機会が奪われるとともに、学校以外で教育を受ける機会も奪われる。
	平成27年度の改善内容		27年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	児童生徒とのかかわりをさらに深め、個々に応じたきめ細かな対応をする。また、いじめ防止基本方針を策定し、いじめ防止等の対策のための組織の設置をする。
	平成28年度の事業の方向性	方向性の判定	拡大	対象の拡大や手段の充実等により、事業のボリュームを拡大すべきもの
		判定理由	不登校やいじめの発生を抑制するために、現在の支援体制を充実させながら、さらに家庭や行政、福祉関係施設等の関係機関との連携を強化し、児童生徒を取り巻く環境への支援についても進めていく必要があるため。	
		28年度以降の改善案	平成27年度に立ち上げた、いじめ防止等対策のための組織を軌道に乗せる。また、関係機関との連携を強化しながら児童生徒を取り巻く環境への支援を実施するため、新たに福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーを教育委員会事務局に配置する。	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	拡大	一次評価のとおりに。